



アマチュアオーケストラ

新交響楽団 第247回演奏会

The New Symphony Orchestra – 247th Concert

指揮 寺岡 清高

TERAOKA Kiyotaka, conductor

Antonín DVOŘÁK SYMFONICKÉ BÁSNĚ ドヴォルザーク 連作交響詩

Antonín Dvořák (1841-1904): Symphonic Poems Op. 107-111(B. 195-199), 1896

水の精

Vodník (The Water Goblin)

真昼の魔女

Polednice (The Noon Witch)

金の紡ぎ車

Zlatý kolovrat (The Golden Spinning Wheel)

野鳩

Holoubek (The Wild Dove)

英雄の歌

Píseň bohatýrská (A Hero's Song)

Design: IMAO Keisuke

池袋駅西口 Ikebukuro Station, West Exit

13:00 開場

2019年10月13日(日) 東京芸術劇場コンサートホール 14:00 開演

Sunday, October 13, 2019, 2:00pm (doors open at 1:00pm) at Tokyo Metropolitan Theatre, Concert Hall

入場料 S席: ¥3,000 A席: ¥2,500 B席: ¥1,500 (全席指定)

88ペアチケット(お二人様で合計88歳以上のお客様は合計金額から1,000円を割引させていただきます。下記コンサートイマジンのみ取り扱い)

チケットのお申し込み・お問い合わせ: コンサートイマジン 03(3235)3777 *10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日を除く)

チケットのお申し込み: チケットぴあ: 0570(02)9999 <http://t.pia.jp/>

東京芸術劇場ボックスオフィス: 0570(010)296 *10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)

(PC) <http://www.geigeki.jp/t/> (携帯) <http://www/geigeki/i/t/> *0570で始まる電話番号は一部携帯電話・PHS・IP電話では受付ができません。

*点字プログラムを若干部用意しております。入口でお渡しいたしますのでお申し付けください。

*おそれいりますが未就学児のご入場はお断りさせていただきます。託児サービスをご利用ください(予約制・詳細は裏面)。

新交響楽団のホームページ <http://www.shinkyō.com/> 演奏会案内や曲目の解説、これまでの活動記録などがご覧いただけます。

ドヴォルザークの連作交響詩

今回の演奏会ではドヴォルザーク晩年に作曲された交響詩5曲を一挙に演奏します。

すでに国際的に認められプラハ音楽院教授をしていたドヴォルザークは、ニューヨークのナショナル音楽院に招聘され、4年間の渡米中に交響曲第9番「新世界より」や弦楽四重奏曲「アメリカ」といった名曲を書きましたが、ホームシックにより任期中断してプラハに戻りました。故郷への想いを強くして取組んだのがこれらの交響詩でした。尊敬していた同じチェコの作曲家であるスメタナが、チェコの自然と歴史を音楽にした連作交響詩「わが祖国」にも影響されたでしょう。ドヴォルザークがこれらの交響詩を作曲したのは、帰国した翌年の55歳。奇しくもスメタナが「わが祖国」を書き終えたのも55歳の時でした。

チェコの民話による交響詩

最初の4曲は、チェコの作家・民俗学者エルベンの詩集「花束」を題材にしています。チェコの民話に基づくもので、エルベンは「チェコのグリム」とも言われています。

簡単にお話を説明しましょう。

水の精 娘が水の精と結婚し水の世界に住んでいたが、実家に帰ってなかなか戻らないので、水の精は怒って自分たちの子供を殺す。

真昼の魔女 母親が「悪いことをすると魔女が来る」と子供を叱るので、悪口を言われた魔女が復讐のために子供を殺す。

金の紡ぎ車 王に見染められた美しい娘を、継母が実娘を嫁がせようと殺すが、魔法使いが生き返らせる。金の紡ぎ車がその件を王に話して、継母と実娘は死刑になる。

野鳩 夫を殺して若い男と再婚した妻が亡夫の墓を参ると、傍らの樫の木で亡夫の生れ変わりの鳩が鳴き、良心の呵責で妻は自殺する。

題名を見るとメルヘンチックですが、実は物騒な話です。しかしチェコ民族の教訓や人生観が表れているのかもしれませんが。曲は生き活きとしており、魅力的なメロディで語られます。

余談ですが、ドヴォルザークは大の鉄道マニアとして知られていますが、鳩の飼育も趣味にしていたということです。

英雄の物語の交響詩

「英雄の歌」は若き日の英雄が意志と自信を持ち、困難に会い悲観と失望、それに打ち勝って最後は勝利を収めるというストーリーです。英雄はドヴォルザーク自身とも言われており、R. シュトラウスの「英雄の生涯」を思わせますが、「英雄の歌」の方が1年早く作曲されました。

初演はマーラーが指揮し、ブラームスの追悼演奏会としてブラームス交響曲第2番とともに演奏されました。ブラームスはドヴォルザークの才能を見出して世に出るきっかけを作り、渡米中の楽譜の校訂を引き受けるほど親しくしていました。マーラーは曲を気に入り、その後もドヴォルザークの良き友人であり支援者であったということです。

どうぞお楽しみに！ (H.O.)

今後の演奏会予定

<第248回演奏会>

2020年1月19日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

曲目 モーツァルト/歌劇「魔笛」序曲、ハイドン/交響曲104番「ロンドン」、チャイコフスキー/交響曲第6番「悲愴」

<第249回演奏会>

2020年4月12日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 矢崎 彦太郎

<第250回演奏会>

2020年7月12日(日)14時 東京芸術劇場

指揮 飯守 泰次郎

新交響楽団のプロフィール

新交響楽団は1956年に創立されたアマチュアオーケストラです。音楽監督・芥川也寸志(1925-89)の指導のもとに旧ソ連演奏旅行、ストラヴィンスキー・バレエ三部作一挙上演、10年におよぶ日本の交響作品展(1976年にサントリー音楽賞を受賞)、ショスタコーヴィチ交響曲第4番日本初演など意欲的な活動を行ってきました。

またマーラーの交響曲全曲シリーズ(山田一雄指揮、1979-90)、ベルリン芸術週間への招聘・邦人作品演奏(石井眞木指揮、1993)、伊福部昭米寿記念演奏会(2002)、石井眞木遺作「幻影と死」完全版初演(高関健指揮、2004)、ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」演奏会形式公演(飯守泰次郎指揮、2006/2019)など、幅広い活動を積極的に展開しています。

維持会のご案内 ～良いお席を安く～

新交響楽団維持会は、新響の演奏活動にご賛同いただき支援して下さる方々の組織です。集まった会費は、楽器購入や演奏企画に活用しています。会費は一口10,000円で、2年間有効の5枚綴りの回数券(どの演奏会でも一度に何枚でも使用可能)を差し上げます。良いS席を優先的に確保いたしますので当日その中からお選びいただけます。お申込みは郵便振替にて直接会費をお振込みください。郵便振替口座:00130-0-28074「新交響楽団維持会」

団員を募集しています

音楽監督の故芥川也寸志が長年にわたって主張し続けてきた「音楽はみんなのもの」を実践し、常に新しい視点を持って活動していくために、新しい力が必要です。何はともあれ、ぜひ一度練習をご覧ください。見学・オーディション等のお問い合わせはE-mail:shinky@music.nifty.jp

練習は毎週土曜日午後6時～9時、東京芸術劇場(池袋)、クラシック・スペース☆100(大久保)他にて。

演奏会当日の託児サービスのご案内

東京芸術劇場でのご鑑賞の際には、施設内の託児室をご利用いただけます。土日祝日を除く公演日一週間前までにご予約ください。3ヶ月～1歳2,560円、2歳～6歳児2,160円。お申込み・お問合せ:HITOWA キャリアサポート株式会社わらべうた 電話0120-415-306(平日9:00～17:00、土日祝日休み)